別紙１

２．22活動報告会レポート

令和6年4月11日 企画部 総合政策課

１．開催日時等

・日時：令和6年2月22日（木）　14:30～16:30
・場所：岐阜市役所６階 6-1大会議室

２．参加者

・市長
・グループメンバー18名
・岐阜市　：関係課長及び職員
　　企画部長、企画部次長兼総合政策課長、総合政策課職員
・十六銀行：関係者
・岐阜大学：岐阜大学社会システム経営学環教授及び助教

３．概要

・グループからプレゼンテーション後の活動及び
ワーキンググループの活動を通して得たことを報告し、
関係課からのフィードバックを実施しました。
その後、市長から講評をいただきました。
最後に、ファシリテーター代表の岐阜大学出村教授から、
活動全体について　総括していただきました。

４．市長からの全体講評

・様々な職場に配属されている中、若手ＰＴの活動を通して
配属先では経験しえないことを経験し、習得できることが
若手ＰＴの醍醐味である。
メンバーからの報告を聞き、実感してもらえているようで嬉しい。

・現在の仕事に一生懸命取り組みながら若手ＰＴで吸収したものは、
今後や新しい配属先で必ず役立つものである。
是非、この経験を活かして今後も頑張ってもらいたい。

※各グループに対する市長の講評は次ページ以降に掲載

グループ①　テーマ：みんなが快適な通勤環境の実現

＜メンバー＞

平光　功太郎さん（保健衛生部　保健衛生政策課）
福井　絢子さん　（ぎふ魅力づくり推進部　歴史博物館）
酒井　景祐さん　（基盤整備部　道路維持課）
三輪　和輝さん（まちづくり推進部　住宅課）
浦　　綾乃さん（岐阜大学）
坂井　香葉さん（十六銀行）

提案の概要

自転車通勤プロモーションにより自転車通勤の魅力を発信し、自動車から自転車への交通手段の転換を促すことで、通勤時の渋滞緩和を図る

〇民間デザイン会社と連携し、自転車通勤プロモーションを実施
- SNS広告、チラシ、ムービーなどを作成
- スポーツバイクのレンタル事業を実施
- 通勤自転車の購入補助を実施

メンバーからの活動報告［活動を通して得た学びなど］

〇課題発見において、「なぜ？」を突き詰めていった先に真の解決策があること
〇プレゼンテーションをするにあたり、相手に伝わりやすい流れの検討
〇教授方や外部企業などのステークホルダーとの人脈形成
〇EBPMを意識した政策立案（根拠や有用性などの積み上げ）の難しさ

関係課からのフィードバック【基盤整備政策課】

〇事業目的である渋滞緩和と手段であるプロモーション活動とを補完するプロセスやエビデンスに基づいた有用性のある事業を加えると良かった
〇プロモーション活動に専門家（民間）と連携するなど発信力を高めることは、事業を戦略的に進めるうえで重要な視点である
〇作成作業を進めている自転車活用推進計画に位置付ける施策等の参考にさせていただく

市長の講評

〇EBPMを意識してエビデンスをしっかりとらえて議論の土台にする
その上で自分自身が肌身をもって感じてることや、
直接聞いたことを加えて政策を作っていくことが大切なので、
今回はその訓練になったと思う

〇データとの結びつきが弱い時に議論が飛躍するため、
必要なデータやヒアリングの結果などを
しっかりと詰めることを、今後の業務で活かして欲しい

グループ②　テーマ：親子の集う新たな場所ニュープレイス

＜メンバー＞

北川　了太さん（行政部　人事課）
野田　恵さん　（市民生活部　市民課）
西尾　明泰さん（福祉部　障がい福祉課）
朝日　健介さん（上下水道事業部　上水道施設課）
松原　心春さん（岐阜大学）

提案の概要

児童館を活用し一時預かりなど子育てを誰かに助けてもらえる場所を創出することで、年代によって支援が途絶えず、シームレスな子育て支援を実現する

〇０歳～６歳の一時預かりを実施（スモールスタート）
- 児童館の空きスペースを活用
- 利用者が予約なしで、１時間単位で利用可能（有料）
- 保育士等の短時間雇用にも寄与

〇地域全体での探求学習の実施（将来的）
〇中高生の学びあいの場の提供（将来的）

メンバーからの活動報告［活動を通して得た学びなど］

〇事業提案の道筋（課題、理想像、解決方法といった流れ）
〇広い視野から考え、根本にある課題を見つける課題整理の方法
〇今回の活動を通して岐阜市全体の行政のあり方や方向性を学ぶことができ、広い知見から業務に取り組めるようになった

関係課からのフィードバック【子ども支援課】

〇提案をブラッシュアップし事業開始時期や開設日・時間、業務形態を変更し予算化した
〇子育てを誰かに助けてもらえる場所を創出することで、シームレスな子育て支援を実現させるという視点は良いと思う
〇児童館やファミリーサポート事業の利用者数増も合わせた効果が出ることを期待する

市長の講評

〇事業詳細を考え予算資料等を作成し、関係課部長や財政課へ説明した事は、事業化におけるリアルな体験として貴重な機会であった
〇モチベーションアップにつながったことは大変嬉しい
現在従事している現場の経験が、今後政策をつくり出す時に必ず活きるので、今回の経験と共に今後に活かしてほしい
〇予算化した事業を単発で捉えるのでなく、こどもファーストの既存事業と掛け合わせたことは非常に良いチャレンジである

グループ③　テーマ：子育て世代 30代からの運動習慣

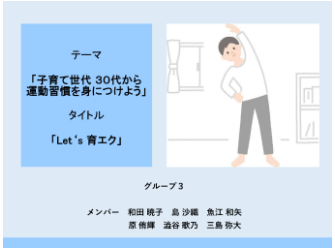
＜メンバー＞

魚江　和矢さん（子ども未来部　子ども政策課）
島　沙織さん（経済部　農地整備課）
和田　暁子さん（薬科大学　教務厚生課）
原　侑輝さん（教育委員会　教育施設課）
澁谷　歌乃さん（岐阜大学）
三島　弥大さん（十六銀行）

提案の概要

自宅でできる「子重トレーニング」の考案と普及、ウゴクテとツナグテの連携による運動機会の創出、及び親子でできる運動競技の開催により、運動するきっかけや時間がない30代の子育て世代の運動の習慣化を図る

〇育エクパッケージを実施
①ウチエク［0歳～3歳］自宅で育児しながら実践できるトレーニングの啓発
②ウゴエク［3歳～6歳］子育て世代のウゴクテ利用促進
③ファミエク［6歳～ ］公園で親子で一緒にできる運動競技の定期開催



メンバーからの活動報告［活動を通して得た学びなど］

〇課題の見つけ方～理想と現状のあいだに～
→市の理想像とは何か、現状はどうか、そのギャップに課題がある
〇ステークホルダーへの聞き取り
→グループ内での話し合いが行き詰まる中、ステークホルダーの聞き取りが打開策に

関係課からのフィードバック【健康増進課・市民スポーツ課】

〇30代からの運動の習慣化は、40代以降の生活習慣病の予防に寄与すると考える
また、ツナグテ利用者をターゲットにすることは事業の目的と合致し良い視点である
〇働く世代・子育て世代の運動不足は『岐阜市スポーツ推進計画』においても課題としており、今回の提案はこうした課題の改善に寄与するものと評価する
〇①②については予算化し、③についてはレクリエーション協会と連携して実施する

市長の講評

〇現場で仕事をしていると忙しく机上で考えがちだが、関係者を回って話を聞くことがとても大事であり、今後も様々な仕事をする際には必ず現場の関係者の話を聞いてほしい
〇関係者の話とデータを大事にしながら物事を判断していく習慣をつけて欲しい
〇仕事や日常の生活の中でアンテナを立てて、色々な人とコミュニケーションを取り、仕事につなげて欲しい

グループ④　テーマ：誰もが気軽に立ち寄ることができる居場所づくり

＜メンバー＞

伊藤　広大さん（都市建設部　公園整備課）
岩田　直也さん（市民病院　病院財務課）
國井　優騎さん（財政部　市民税課）
大橋　那奈子さん（環境部　産業廃棄物指導課）
佐藤　里帆さん　（岐阜大学）
大東　加奈さん　（カンダまちおこし）

提案の概要

**若い世代が主体となって公民館を活用し、
誰もが気軽に立寄れる場所「よっところ」を核に
地域の人々を巻き込みながら、多世代コミュニティの形成を図る**

〇公民館の空きスペースを活用し「よっところ」を開設
〇市若手職員と学生による「よっとこらー」が運営を担う
　・よっとこらーを募集し、有識者の講師が育成
　・地域の人たちが気軽に関われる催しを実施（ｹﾞｰﾑ、ｲﾍﾞﾝﾄ等）
〇SNSを活用した能動的な広報や、
　スマートロックの導入による公民館の利便性向上

メンバーからの活動報告［活動を通して得た学びなど］

〇公民館講座の見学を通して現場の課題を再認識するなど、
　利害関係者とのコミュニケーションの重要性
〇日常のストレスを解消する理想像を描いたうえで、
　岐阜市の取り組みの全体像を把握し、取り組むべき課題を明確化するプロセス
〇成功事例の要素を組み合わせ、解決策を構成していく提案手法

関係課からのフィードバック【市民活動交流センター】

〇公民館を誰もが気軽に立ち寄れる場所とし、若い世代を取り込む視点は、
　地域の新たな担い手づくりに繋がるものであると評価
　→公民館講座等の企画として、活用していきたい
〇現場の公民館活動を実際に見学し、地域住民に意見聴取を行った経験は、
　今後の様々な政策検討の知見につながるものと期待

市長の講評

〇公民館の活用にとらわれず、未来の学校という観点で、
　少し長い目で見ると、とても良いアイデアかつ切り口である

〇今後も、これからの学校が地域に開かれた集いの場や、
　異年齢のコミュニケーションする場になっていく事を
　注視しながら、今回の思いを温めておいて欲しい